

小中学校のトイレ改修が本格的にスタート!



これまで会派として求めてきた市内小中学校のトイレ改修が、平成29年度より本格的にスタートすることになりました。平成28年第4回定例会の私の代表質問にて、教育委員会から10年間で改修するとの明確な答弁がありましたが、更なる期間短縮を要望し、8年間の改修スケジュールとなりました。

トイレ改修の3つの改善要求



便器の洋式化

家庭では9割以上、商業施設でも洋式便器の設置割合が高いのが実情であり、今の日本の生活スタイルから考えても、便器の洋式化が必要。



床のドライ化

現行のタイル張り床で水を流して清掃を行う湿式の場合は、常に床がぬれていて細菌の温床になっており、乾式に比べて臭いや細菌など衛生面で課題。



節水型便器の導入

水道使用料が1/2近く節水でき、1校あたり100万円(規模による)近い金額が節約可能、ランニングコストの節減効果から改修費用をまかなえることが可能。

今後、大規模改修と並行してトイレ改修が行われていきます。改修されたトイレは明るく清潔感もあり、きれいに維持管理していくことも大切です。

また、8年間という期間が明らかになりましたが、今後は早期に全ての学校の改修ができるよう、予算措置も含めて求めていきます。

市の教育現場が変わります!

4月1日より、給与負担及び学級編成基準等を定める権限及び財源が千葉市に移譲されることになりました。千葉市の小中学校の教育現場が変わることにより、より行き届いた教育の実現に向けた大きな一歩を踏み出しました。「少人数学級」を実施せず、担任分として配置された教員を「少人数指導」担当として活用することができます。

小3に72人が在籍するケース

平成29年3月31日まで

36人×2クラス(教員2人)

1組 36人 2組 36人

平成29年4月1日から

少人数学級

24人×3クラス(教員3人)

1組 24人 2組 24人 3組 24人

少人数指導

36人×2クラス(教員3人)

1組 36人 2組 36人 少人数指導担当

学校の
実情に
応じて

三井みわこ プロフィール

1971年：生まれ 千葉市中央区登戸在住
2002年：NPO法人ハートケアゆーあい(障がい者の施設)設立
2003年：聖徳大学大学院 児童学研究科 修士課程修了
2006年：NPO法人政策塾「一新塾」(熊谷市長と同期)卒業
千葉県教育戦略ビジョン策定作業部会委員
2007年：社会福祉法人「白雪会」の理事に就任、軽費老人ホーム「ほんだくらぶ」の運営に携わる
2008年：ちばCO2CO2ダイエット推進 / 県民会議 委員
2010年：千葉市「新市民計画策定のための市民ワークショップ」委員
2011年：千葉市議会議員選挙 初当選
2013年：都市建設委員会副委員長
2015年：千葉市議会議員選挙 2期目当選

E-mail: mm@mitsui-miwako.com
Twitter ID: 三井美和香
発行: 三井 美和香
TEL: 043-216-5432
FAX: 043-216-5433
千葉市中央区登戸 1-11-13-203

ご意見ご要望がありましたら、
右記の連絡先までよろしくお願い致します。



※この市議会便りは、二つ折りにして、保管していただくことができます。

千葉市議会議員(中央区選出)

なでしこカ!!

三井みわこ 議会報告



平成29年第1回定例会 討論で登壇!



私は、これからも福祉の視点、女性の視点を通じて、大人も子どもも、高齢者も障がい者も、そして、誰もが「安心して暮らせるまち」づくりを目指します。また、次世代を担う若者が夢を持って働き、生き生きと暮らせる豊かな街へ、千葉市中央区から変えて参ります。さて、平成29年第1回定例会市議会が、2月17日から3月15日まで開催されました。今回は、会派を代表して討論を行いましたので、ご報告致します。

熊谷市長に新年度予算に関する重点要望を提出しました



平成28年第4回定例会において一般質問した産後ケアに関する件が、このたび平成29年度事業として予算化されました。

意見・要望の内容

産前産後の時期はホルモンの変化が大きく不安定な時期であるため、正常なホルモンバランスを保つためには、専門家による継続したケアや、家族や周囲に認められ大事にされる安心感が必要で、産前産後の女性には安心できる環境が必要です。また、周産期うつは潜在的に誰もが抱えており、約半数の産後女性は、産後1年くらいの間に、「自分が“産後うつ”だったかも」と感じた経験があるといった統計を挙げ、とくにピークである産後3ヵ月までは、母親自身が頑張りすぎないことが必要です。そして、産後は医療施設よりも、家庭・地域でのサポートが必要となってくるため、医療と地域の連携が課題です。医療施設においては年々入院期間が短縮され、十分な育児技術指導を受けないまま退院する傾向が見られるため、産後の母親が最も不安を感じる退院直後3ヵ月頃までの支援が重要です。



平成29年度予算化事業

- 母子健康包括支援センター(新規)
各保健福祉センターに、妊産婦を妊娠期から産後早期まで切れ目なく支援する「母子健康包括支援センター」を開設。
- 産後ケア宿泊施設型、訪問型
平成29年7月から、産婦や乳児の心身のケア、沐浴・授乳の実技指導などを行うサービスを開始します。





会派を代表して、本定例会に提案をされた平成29年度予算案をはじめ、各議案について、各委員長報告に賛成する立場から討論を行いました。

新年度予算は、市税収入が、個人市民税の増などから増収が見込まれたものの、急速に進展する少子・高齢化への的確な対応が求められたことなどから、引き続き多額の収支不足が見込まれ、厳しい予算編成であったことが推測されます。そのような厳しい財政状況にありながらも、単に既存事業を見直すだけでなく、施策の選択と重点化により、将来の本市の発展や市民生活の向上に資する施策が随所に盛り込まれていることが確認できたところです。

1 財政運営について

「第2期財政健全化プラン」では、本市の財政運営に大きな影響のある建設事業債等残高や債務負担行為支出予定額、基金借入金残高などを主要債務総額として位置付け、平成29年度末までに1,000億円程度削減することとしております。新年度予算では、主要債務総額全体としては、前年度と比較して146億円減少し、プランの目標を上回る1,079億円の削減見込みとなり、その取組みを評価するところです。

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会開催に向けた取組みの推進について

世界最大のスポーツの祭典であるオリンピック・パラリンピックの開催は、スポーツのみならず文化、教育、国際交流、観光、経済、まちづくりなど様々な分野の発展の好機です。特に、オリンピック3競技・パラリンピック4競技が開催される本市では、国の内外から多くの来訪者をお迎えする競技会場都市として大会を成功させ、スポーツ文化を普及し、多様性に対応した共生社会を実現する、そして、集客、宿泊を最大化することで、都市活力の向上につなげることができる大変貴重な機会であると考えております。

防災・減災対策について

先日公表されました本市の地震被害想定調査によりますと、千葉市直下地震が発生した場合、市域の大半で震度6強または6弱の揺れが発生し、市内で最大1,130人が死亡、23,300棟が全壊・消失すると想定されます。また昨年政府の地震調査委員会が公表した「全国地震動予測地図 2016年版」によると、本市は今後30年以内に震度6弱以上の大地震に見舞われる確率が85%と極めて高い数値となっており、いつ起きるか分からない大規模災害への備えは、速やかに進めていくことが重要です。

2 地域包括ケアシステムの推進について

あんしんケアセンターの増設や、認知症初期集中支援チームの増設などにより、高齢者の相談窓口が一層身近になるとともに、支援体制が強化され、一定の評価をしております。しかしながら、我が会派の代表質疑でも取り上げましたように、個人や世帯単位で、福祉分野に限らず、保健医療、就労など複数分野の課題を抱え、「縦割り」で整備された公的な支援制度では対応することが困難なケースが増えていることから、今後は、情報共有の強化や地域へのアプローチ手法の一元化など「縦割りを超えた全庁横断的な地域包括ケアへの取組み」をより一層推進していくよう要望します。

妊娠・出産への支援について

母子健康包括支援センターの設置や、産婦や乳児の心身ケアなどを行う産後ケアの開始により、妊娠期から子育て期まで切れ目ない支援が実施され、特に、妊娠中から産後早期の支援体制が強化されることであり、その取組みを高く評価します。

3 保育の質の確保について

定期的な巡回指導の充実など、着実な取組を行っていることを確認しました。今後も更なる研修環境や巡回指導の充実などに努めるとともに、保育士が安心して日々の保育や質の向上に臨める環境整備に向け、保育士の確保や処遇の改善、負担の軽減など、より一層の支援を行い、さらなる保育の質の向上に取り組まれるよう要望します。

子どもルームについて

年々増大する需要に対応し、29年度予算においても、施設整備を着実に推進されるとともに、人員確保に向けた指導員の処

遇改善や、民間事業者に対する補助制度を新たに創設するなど、積極的な取組みを展開されていることは、一定の評価をします。しかしながら、保育所と同様、保護者の方が子育てをしながら安心して働ける社会をつくるためには、子どもルームの待機児童の早期解消に全力で取り組み、さらに質の高い保育を提供することが必要です。今後とも引き続き、施設の整備を計画的に進めるとともに、民間事業者の参入などの新しい取組みを進め、待機児童の早期解消と質の高い保育を両立していくことを要望します。

地域小規模児童養護施設整備について

社会的養護を必要とする児童に対して、施設における家庭的養護を推進するための取組みを計画的に進めていることを評価します。引き続き、複雑多様な課題を抱えている施設児童を健全に育成するため、積極的な事業展開をしていくよう要望します。

4 学校施設的环境整備について

外壁改修等の老朽化対策はもとより、毎日使うトイレの洋式化など、引き続き、子どもたちが安全・安心に学べる環境を早期に確保できるよう計画的かつ着実に実施されることを要望します。



5 教育施策について

5 廃棄物対策について

これまでも様々な施策を展開し、ごみの減量に取り組んできたところですが、来年度からは、家庭から排出される剪定枝等の分別収集を全市域において実施するなど、ごみ減量・再資源化の取組みを着実に強化していることを評価します。3用地2清掃工場運用体制移行後も安定的なごみ処理を行うとともに、市民及び事業者との協力・連携を図りながら、引き続き、ごみの減量を推進し、循環型社会を実現していくことを要望します。

6 環境行政について

6 中小企業支援について

昨年11月に開催した産学合同技術シーズ交流会等でくみ取った市内中小企業の産学連携ニーズに対応し、産学共同研究促進事業を拡大したことや、時代にあった創業支援として、民間レンタルオフィスとの連携やトライアル発注支援など、幅広い取組みを進めていることを確認いたしました。

7 経済農政について

今後は、今まで以上に関係機関との連携を強化し、中小企業・小規模事業者の事業活動の安定と経営革新により、地域経済がより一層活性化されることを期待します。

7 下水道事業について

市民の利便性や収納率の向上を目的とする、千葉県水道局との上下水道料金徴収一元化を、平成30年1月に実施する予定となっていますが、制度の変更により市民の皆様が混乱しないよう、下水道使用料の請求や支払に関する変更点について、事前周知を十分に行うよう要望します。

8 消防行政について

救急体制整備として、我が会派の代表質疑でも取り上げました救急情報共有システムを活用するとともに、救急車の適正利用を推進し、救急搬送の迅速化が図られていることを評価します。引き続き、救急搬送の迅速化や、救急隊員への研修、市民のニーズにあわせた救命講習会など、救命率の向上や後遺症の軽減に寄与する取組みを幅広く進めていくよう要望します。

9 都市アイデンティティについて

本市が活力を維持し、持続的に発展し続けるためには、国内外に存在感を強くアピールし、「選ばれる」都市となれるよう、本市固有の「千葉らしさ」の確立が不可欠であると考えています。新年度予算では、先日、国特別史跡指定の申請を行った加曽利貝塚の活用や、幕張海浜公園における官民連携事業化調査をはじめとした海辺の活性化など、「千葉らしさ」の確立に資する事業が盛り込まれています。引き続き、加曽利貝塚、オオガハス、千葉氏、海辺の4つの地域資源を最大限に活用し、官民一体となり「千葉らしさ」の確立に向けた取組みを進めていくことを要望します。

三井みわこからの一言 なでしこ力!!

引き続き、財政健全化とのバランスを取りつつ、未来への投資を行い、97万市民が「夢と希望を育み、生涯を安心して託せる」郷土千葉市となるよう、熊谷市長をはじめ、執行部のみなさんが一丸となって邁進していただくことをお願いいたしまして、未来民進ちばを代表しての賛成討論とします。

